

公益社団法人 ソーシャル・サイエンス・ラボ 定款（抜粋）

（目的）

第3条 この法人は、地域の産業活力、地域の文化振興及び地域住民の健康福祉向上の実証研究、調査及び施策提言を行い、地域産業振興の為の施策並びに地域文化の伝統継承に貢献し、もって地域活力のための具体施策に取り組み、並びに多様化・複雑化する経営課題を解決するための中小企業に対する経営支援、及び地域文化の行催事の支援に寄与することを目的とする。

（事業）

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 地域経済社会に貢献するための経済・政治・文化及びこれらの諸制度に関する調査研究並びに大学研究機関等と連携した共同の研究活動
 - (2) 伝統的日本文化の行催事等慣習・風俗・歴史の研究、保存及び伝承並びに地域の行催事支援
 - (3) 中小企業経営力強化支援法に基づく経営革新等支援業務
 - (4) 前3号の事業にかかわる機関誌並びに法人活動のための研究レポート等の刊行
 - (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業は、奈良県において行うものとする。

入会案内

行政への提言を含め、事業を力強く推進していくためには、会員の一層の事業参画と協力が不可欠です。そのため当公益社団法人では地域の活性化と文化の向上により寄与すべく常時会員を募集しています。会費は以下の通りです。

■個人正会員	一口 10,000円、一口以上
■団体正会員	一口 10,000円、三口以上
■賛助会員	30,000円以上

ぜひ入会をご検討くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、手続き等の詳細は事務局にお問い合わせください。
(お問い合わせ) TEL: 0742-20-7807

当公益社団法人への寄附のお願い

当法人では、個人・法人からの寄附を募っています。
公益社団法人ならではの税の控除が受けられます。

当法人は、奈良県知事より2013年3月、公益性を有する組織として公益社団法人認定されています。そのため、当法人への寄附については税法上の優遇措置が適用され、所得税（個人）、法人税（法人）の控除が受けられます。
■詳しくは税務署にお尋ねになるか、
国税庁のホームページ (<http://www.nta.go.jp/>) をご確認ください。

寄附については通常寄附と特別寄附があります。
特別寄附では使途や管理運営法を指定できます。

- (1) 通常寄附金
当法人の会員を含む広く社会一般に常時募金活動を行うことにより受領する寄附金です。
寄附金額の50%以上を公益目的事業に使用します。
 - (2) 特別寄附金
上記寄附金のほか、個人または団体から受領する寄附金です。
寄附者が寄附金の使途及び管理運営方法に条件を付けることができます。
- (注) 金銭のほか金銭以外の財産権（有価証券等）を含みます。
なお、これらの寄附については当法人のHP (<https://www.s-s-l.jp/>) をご参照ください。

寄附のお振込先口座

南都銀行 西大寺支店 普通 2061041
振込先名義：シャ) ソーシャル サイエンス ラボ

お問い合わせ・お申し込み先

当公益社団法人 TEL: 0742-20-7807 E-Mail: info@s-s-l.jp

2022年度 活動報告書

公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ

Contents

1 奈良 SDGs 学び旅	1-4
2 地方創生カレッジ	5
3 高圧経済研究部会	6
4 中小事業者への経営支援	7
5 理事紹介	8-10

Theme1

奈良SDGs学び旅

当公益社団法人は、持続可能な社会の創り手育成と県内観光産業の振興に向け、引き続き、「奈良SDGs学び旅」の企画・開発・発信に取り組んでいます。

2020年度にスタートした奈良SDGs学び旅事業。3年目となる今年度は、既に事業化に至っている「教育旅行」は、県内外からの注目を集めつつ対前年度比で300%の参加数増となりました。また、「大人の学び旅」分野では、教育旅行に引き続き「奈良新しい学び旅推進協議会」の体制のもと、大人の学び旅開発プロジェクトのキックオフ、モデルツアーの開催、等の取り組みを実施しました。

【A】奈良SDGs学び旅－教育旅行

「奈良SDGs学び旅－教育旅行」は、奈良教育大学ESD/SDGsセンターの講師陣による「SDGs講義」と、学び旅ガイドの育成研修を終えた観光ガイドによる「フィールドワーク（東大寺コース、春日山原始林コース・ならまちコース）」の2部構成から成る体験学習プログラムです。



SDGs講義（オンライン）の様子



フィールドワーク（東大寺コース）の様子



フィールドワーク（春日山原始林コース）の様子

（1）教育旅行の実施状況

今年度の教育旅行の利用実績は、参加校数が36校で昨年度より112%増加、また参加人数は3,493名で昨年度より196%増加しました。

教育旅行への参加校数及び参加人数の推移				
実施年度	2021年度		2022年度	
	校数	人数	校数	人数
小学校	2	77	3	191
中学校	9	956	18	2,247
高等学校	6	148	13	926
中高一貫校	0	0	2	129
合計	17	1,181	36	3,493
増減率	—	—	112%	196%



拡大版はこちら



観光経済新聞 第3168号
(2023年4月3日発行) 掲載面 高校教育旅行特集 3面

一方で、数多くのメディアに取り上げられ、いずれからも高い評価をいただきました。

次年度は、「奈良SDGs学び旅－教育旅行」により多くの学校や学生・生徒に参加していただけるよう、プロモーション活動やガイド育成に積極的に取り組む予定です。

（2）教育旅行誘客への取り組み

①学び旅オンラインプログラム説明会

「奈良SDGs学び旅」の特徴を知って頂くために、オンラインによる説明会を合計27回実施致しました。旅行代理店だけでなく、学校関係者様向けにも実施することで、プログラムの満足度が向上しました。主なものは下表の通りです。

実施日	主な参加団体
4/19	JTB、日本旅行他
5/10	東武トップツアーズ、奈良ホテル
5/17	ホテル日航奈良、近江トラベル
5/24	JTB、下電観光バス
5/24	姫路女学院中学校、愛徳学園小学校
5/31	初芝立命館中学校
6/7	福山ツーリスト
6/14	JAならけん

実施日	主な参加団体
6/21	JTB
7/12	琉球大学
8/2	初芝橋本中学校
8/24	山県市立高富小学校
8/25	日本大学中学校
9/2	福山市立城南中学校
9/16	五所川原第一高校、JTB
11/1	近畿日本ツーリスト



オンライン説明会の様子

②次世代ガイド育成

奈良教育大学・奈良まほろばソムリエの会の協力のもと、次世代ガイド育成プログラムを実施。研修7回・終了検定1回、合計8回のプログラムを通じ、3名のガイドを育成しました。

研修内容				
回数	実施日	時間	講師	会場/エリア
1	9月1日	13:00~16:00	中澤 静男 大西 浩明	奈良教育大学
2	9月8日	13:00~16:00	友松 洋之子 杉山 拓次	奈良商工会議所 東大寺
3	10月23日	13:00~16:00	友松 洋之子 杉山 拓次	東大寺
4	11月30日 12月4日	13:00~16:00	友松 洋之子 杉山 拓次	東大寺

研修内容				
回数	実施日	時間	講師	会場/エリア
5	1月11日	①10:00~11:00 ②13:00~16:00	友松 洋之子 杉山 拓次	東大寺
6	3月1日	13:00~16:00	友松 洋之子 杉山 拓次	東大寺
7	3月9日	13:00~16:00	友松 洋之子 杉山 拓次	東大寺
検定	3月16日 3月17日	10:00~11:00 13:00~16:00	友松 洋之子 杉山 拓次	東大寺



中澤 静男
立命館大学文学部史学科卒業。奈良県内の小学校の勤務の後、奈良市教育委員会指導主事を経て、2011年4月より奈良教育大学にて勤務。2022年からESD・SDGsセンター長と教授に就任。日本ESD学会※設立メンバー。当公益社団法人理事。



大西 浩明
奈良市内の公立小学校の勤務を経て、2020年4月より奈良教育大学にて特任准教授として勤務。2022年から奈良教育大学ESD・SDGsセンター所属。ESDスペシャリスト。近畿ESDコンソーシアム事務局長。日本ESD学会評議員。



杉山 拓次
東京生まれ。環境NGOに10年勤務後、2014年に奈良市へ移住。市民団体「春日山原始林を未来へつなぐ会」の事務局長に就任。2020年からは奈良教育大学の研究員としても活動し、2022年から奈良教育大学ESD・SDGsセンター所属。



友松 洋之子
武庫川女子短期大学教育課幼稚園課程卒業。平成21(2009)年より奈良にて観光ガイドを始め、平成28(2016)年、第1回Nara観光コンシェルジュアワード最優秀賞を受賞。



ガイド育成プログラム実施の様子

③学級新聞発行 ※メールマガジン

2022年8月10日に発行開始し、2023年3月31日までに合計16回発行しました。



奈良公園の循環型環境における重要な存在であるルリセンチコガネ。彼を新たな奈良公園のマスコットとすべくキャラクターを制作。子供たちにもわかりやすくSDGsや奈良公園の自然などに興味を持ってもらえるように、奈良公園の仲間といっしょに奮闘中。



Theme1

奈良SDGs学び旅

【B】奈良SDGs学び旅ー大人の学び旅 日本の食の聖地巡礼NARA～始まりの地、奈良で学ぶ・愉しむ～ プロジェクト始動



2023 年は、日本で最初に「法隆寺」が世界文化遺産に登録されてから 30 年、そして「古都奈良の文化財」が登録されてから 25 年の記念すべき年となります。2020 年に無形文化遺産に登録された「伝統建築工芸の技」についても奈良は深く関わっており、当公益社団法人も登録までの活動全般に貢献してきました。2024 年には「伝統の酒造り」が無形文化遺産に登録されることが決まっております。日本清酒発祥の地・正暦寺をもつ奈良がその機会をとらえ、奈良県、菩提配清酒研究会、奈良県旅館・ホテル生活衛生同業組合、地元タウン誌 Yomi っこ等との協働事業として日本の食の聖地巡礼 NARA の活動をスタートさせました。

(1) 11月16日プロジェクト始動を広くアピールするため、記念講演会・記者発表会を奈良まほろば館(東京)で開催

【プロジェクト始動宣言】

「和食」は日本人の伝統的な食文化として、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。世界の美食家が認める「和食」のルーツは、1300年前の奈良にあります。調味料を使い始めて料理が進化し、美しく盛り付けて五感で料理を楽しんでいた記録が残されています。全国から美味しいものが奈良に集まり、朝廷や権力を持っていた寺院で、今私達が親しんでいる食文化が生まれます。様々な食材の伝来、宴に欠かせない日本酒(※2024 年 伝統の酒づくりがユネスコ無形文化遺産に登録予定)料理のベースとなる醤油や味噌等の調味料、医食同源として人々の健康と 美容に用いられた薬草と漢方の考え方を取り入れたお料理などが、日本の食文化の礎となります。そんな日本の食文化・和食のDNA、ルーツを辿る旅が奈良にはあります。日本酒好きの方も、美食家を名乗る方も、歴史好きの方も、旅好きの方も、好きの方も、生命の根源であり私たちの体と心を満たす「食」の聖地・奈良を訪れて頂きたいと考えています。



奈良新聞 11月21日掲載



日本清酒発祥の地
正暦寺・大原住職



菩提配清酒研究会
駒井会長(菊司酒造社長)



記念講演会・試飲会には一般30名、記者20名が参加



(2) タウン誌「Yomiっこ」(16万部発行)と連携、地元機運醸成のためのプロモーションを展開



「Yomiっこ」11月号特集企画として掲載

(3) 1月9日～10日正暦寺の菩提配清酒祭、酒蔵見学、奈良酒ガストロノミーディナー等で構成するモデルツアーを開催

奈良市・奈良県の観光関係者、旅メディア関連の記者、万博関係者等、20代から70代までの幅広い年齢層で2日間延べ約40名の方々に体験いただきました。酒造免許を持つ日本で唯一の寺・日本で唯一食文化のみならず、創業1577年の「奈良墨」の伝統工房探訪や書家の桃蹊さんによる「墨あそびワークショップ」等、伝統産業を継承する匠たちの技、その歴史が紡いだ書の文化等、奈良ならではの体験プログラムは大好評でした。(旅行主催:JTBN奈良支店)



菩提配清酒祭に参加



稲田酒造(天理市)酒蔵見学



奈良酒蔵元トーク&ディナー



漢方由来カレー粉づくり体験

当公益社団法人では関西歴史文化首都フォーラム事業(イベント学会主宰)にも参画しており2025大阪関西万博の2府4県の周遊観光の重点エリアとなることを目指して活動を続けていきます。

【C】奈良SDGs学び旅ー関連事業

前述の教育旅行、大人の学び旅に加え、持続可能な社会の作り手育成や県内観光事業の振興に資すると考える事業を関係機関より受託し、奈良SDGs学び旅関連事業として推進しました。

(1) 奈良商工会議所「商工会等地域魅力づくり支援事業」SDGs学習イベントを計20回開催しました。



SDGs×ビジネス基本編①



東大寺フィールドワーク



SDGs×ビジネス基本編②



川上村



菊岡漢方薬局(漢方)



錦光園(奈良墨)

No.	日時 参加者数	テーマ
1	8/31 5名	SDGs×ビジネス基本編① 第1部 SDGsの基本とSDGs視点をもつー 第2部 脱炭素経営から始める環境対策 ービジネス視点でのSDGsー
2	9/10 2名	東大寺フィールドワーク
3	9/20 7名	SDGs×ビジネス基本編② 第1部 SDGsの基本とSDGs視点をもつー 第2部 持続可能な地域づくりとSDGs ー部分最適から全体最適にー
4	10/2 6名	スマート町内ワークショップ「共創ってなあに？」
5	10/30 7名	地域活性化ワークショップ 現地リサーチ体験 とみのおの日「ハロウィンイベント」の街の様子と普段の様子を比較してみる
6	11/16 5名	地域活性化ワークショップ 現地リサーチの報告及び地域課題の掘り起こしと設定
7	12/2 7名	地域活性化ワークショップ 国内外の事例研究とアイデア出し
8	12/16 5名	川上村 ーSDGsで村の価値を高めるブランディングと、高齢・過疎地域でも伸びる住民向けサービス事業の本質を知るー
9	12/21 8名	古梅園(奈良墨) 伝統を守る。持続することの難しさと本物を残すことの意味からSDGsを考える
10	1/12 8名	地域活性化ワークショップ 国内外の事例研究とアイデアまとめ

No.	日時 参加者数	テーマ
11	1/13 6名	五條市 ー日本一の柿の産地「五條市」で学ぶ、地場産業を持続させるために必要なことー
12	1/26 8名	商店街活性化ワークショップ 持続可能な商店街とは？
13	2/8 13名	商店街活性化ワークショップ 商店街が活性化するアイデアとは？
14	2/13 7名	菊岡漢方薬局(漢方) 漢方のルーツである奈良で、オリジナルカレー粉づくりから漢方の魅力を学ぶ
15	2/24 6名	奈良屋本店(奈良漬)・春鹿(日本酒) 地元の野菜で奈良漬を作る！地域と共に伝統を守る取り組みと、次世代へ味を伝える取り組み
16	3/9 4名	東吉野村 「移住者が集まる村」で学ぶ、新しい人材を受け入れるヒントと、チャレンジをサポートする場づくり
17	3/15 4名	錦光園(奈良墨) 奈良墨をもっと多くの方に知って頂くために！発信することで生まれる新しい繋がり
18	3/17 8名	ゴールデンラビットビール(地ビール) 「奈良を盛り上げたい」から始まったクラフトビール作り。その想いの中に詰まったSDGsを学ぼう
19	3/23 3名	池田含香堂(奈良団扇) 奈良時代に始まる奈良団扇の歴史と、これからの新しい価値を作る取り組みを学ぶ
20	3/27 11名	中西与三郎(和菓子) 和菓子の新しい可能性の発信と、ならまちへの想い。伝統の活かし方から学ぶSDGs

(2) 奈良県「奈良公園バスターミナル1-3月期実施イベント運営業務」 親子向けと大人向けイベントを計7回開催しました。

No.	日時 参加組数	テーマ
1	1/4 7組	しぶんぎ座流星群を楽しもう！
2	1/22 11組	新月の夜！ 冬の星座を見つけよう！
3	1/14 4組	ストラップ作り
4	2/12 8組	モビール作り

No.	日時 参加者数	テーマ
5	1/18 52名	第1回「大人のならびと」見聞録 スティーブ流・奈良活のススメ
6	2/21 58名	第2回「大人のならびと」見聞録 奈良好き過ぎて大学入りました！ どっぷりハマる私の奈良学
7	3/16 85名	第3回「大人のならびと」見聞録 外から奈良を見た時に思うこと

Theme2

地方創生カレッジ事業



当公益社団法人は、昨年度に引き続き内閣府より地方創生カレッジ事業を受託、「地方創生カレッジin奈良 SDGs フィールドミュージアム奈良 スタートアップ会議～歴史文化観光DXによる観光と地域産業の活性化～」に取り組みました。

主催：公益財団法人日本生産性本部 協力：奈良新しい学び旅推進協議会 事務局：公益社団法人ソーシャル・サイエンス・ラボ

「地方創生カレッジ」とは、地方創生に携わる人材の育成・確保を目的とする内閣府の地方創生支援事業です。今回の取り組みでは、奈良の有形・無形の文化財を新たな視点で捉え直し、コンテンツの融合や観光DX・人材育成による「持続可能な歴史観光都市・奈良」の活性化を目指しています。建築・文化財・ESD・メタ観光という異なる分野の有識者が参画し、シンポジウムとワークショップを開催しました。シンポジウムとワークショップの内容を収録した計5本の動画を、講座動画として地方創生カレッジ公式 Web サイトへ掲載しました。

【1】シンポジウム 実施日：2023年3月8日（水）

○パネルディスカッション

「まちごと世界遺産・奈良の持続可能な観光まちづくりを地域の大学・研究機関と共に考える」

パネリスト

藤田 盟児 氏（奈良国立大学機構 奈良女子大学 工学部長）
本中 眞 氏（独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長）
宮下 俊也 氏（奈良国立大学機構大学統括理事 奈良教育大学長）
コーディネーター
川井 徳子（奈良新しい学び旅推進協議会 実行委員長、
当公益社団法人 専務理事）

○観光DX セミナー

「新たな観光現象はスマホの中にある」
観光客の立場に立って観光をとらえなおす“メタ観光”とは!?

講師

牧野 友衛代 氏（メタ観光推進機構 代表理事）



【2】メタ観光ワークショップ

講師：真鍋 陸太郎 氏（メタ観光推進機構 理事）／菊地 映輝 氏（同）

第1回

「Google マイマップでグルメマップを創ろう
奈良の食とまちの魅力に「気づく」「楽しむ」
「広める」」
実施日：2023年2月18日（土）
会場：BONCHI



第2回

「Google マイマップで「歴史エンジョイマップ」
を創ろう
「気づく」「楽しむ」「広める」」
実施日：2023年3月8日（水）
会場：奈良公園バスターミナル



第3回

「Google マイマップ合同発表会」
実施日：2023年3月12日（日）
会場：奈良春日野国際フォーラム堂



Theme3

高圧経済研究部会

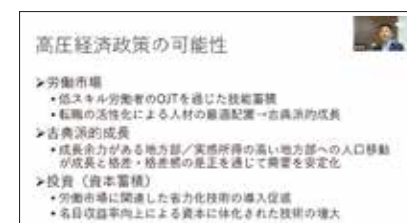


当公益社団法人は、停滞が続く日本経済への処方箋の1つとして注目を浴びつつある高圧経済の考え方を普及させるための支援に取り組んでいます。

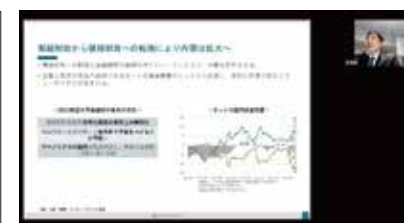
高圧経済とは、財政政策と金融政策の両面から人手不足経済を作り出すことで雇用拡大を図り高い経済成長を生み出そうとする考え方です。その手法が景気浮揚策として有効であると考えられている一方で、高圧経済による過度の刺激が財政赤字や金融の不安定化をもたらすとの懸念も指摘されています。そこで、「景気循環学会」の一部会として「高圧経済研究部会」が新たに設立され、高圧経済の効果とその限界や問題点等について、理論的、実証的に研究することを目的に活動を始めました。

今年度は、原田泰元日本銀行政策委員会審議委員（当公益社団法人 特別主任研究員）を部会長とする下記講演会を開催し、高圧経済の認知拡大に努めました。

研究会	開催日・場所	講演者、講演テーマ（敬称略）
第1回	2022年6月30日 大手町三井カンファレンス	①野口 旭 日本銀行政策委員会審議委員 「高圧経済とマクロ経済政策」 ②野村 浩二 慶応義塾大学産業研究所 教授 「為替レートと生産性格差 プラザ合意後の日米産業の経験」
第2回	2022年9月7日 大手町三井カンファレンス	①片岡 剛士 元日本銀行政策委員会審議委員 「グローバルインフレ下の日本経済 ～政府・日銀・企業はどう対応すべきか～」 ②飯田 泰之 明治大学政治経済学部 教授 「高圧経済の学説史」
第3回	2022年12月7日 TKP 東京駅カンファレンス センター	①永濱 利廣 株式会社第一生命経済研究所 経済調査部 首席エコノミスト 「中間層復活に向けた経済財政運営の大転換」 ②柿埜 真吾 高崎経済大学経済学部 非常勤講師 「自由民主主義を守りための高圧経済の必要性」



第2回研究会 飯田 泰之 氏 講演



第3回研究会 永濱 利廣 氏 講演



第3回研究会 柿埜 真吾 氏 講演

今後も高圧経済研究部会の活動を継続します。次年度は、講演会開催の他、関連書籍の出版、関係省庁・自治体への政策提言、を予定しています。

Theme4

中小事業者への経営支援



当公益社団法人は、中小企業診断士の有資格者が中心となって県内の中小企業や小規模事業者の経営基盤強化に向けたきめ細かな経営サポートを行っています。

今年度は、新型コロナに加えロシアのウクライナ侵攻による影響も現われ、中小事業者にとって依然厳しい状況を強いられた年となりました。こうした状況の中、前年度に引き続き、中小事業者様が現在の事業環境を前向きに捉え、再起と飛躍を目指すための支援を年間通じて行ってきました。

とりわけ、補助金の積極的活用による事業再起と飛躍を支援テーマに、補助金活用セミナーの開催や個別事業者への補助金申請支援を精力的に実施しました。

1. 補助金活用セミナーの開催

6月13日(月)、参加者約30名のもと、奈良県選出の参議院議員佐藤啓氏をお招きし、補助金制度の積極的な活用に向けたオンラインセミナーを開催しました。第1部では、佐藤議員から、中小事業者が活用可能な経済産業省関連の補助金制度について紹介、ご講話いただきました。引き続き、第2部は、佐藤議員と補助金活用により経営成果を挙げてこられた3事業者をパネラーとするパネルディスカッションとし、補助金活用の経緯や活用のコツ、申請時の苦労話等についてお話しいただき、ご意見を交していただきました。

2. 個別事業者への補助金申請支援

今年度に当公益社団法人が行った補助金応募支援を通じ、経済産業省関連の補助金に採択され、引き続き採択後の交付申請や実績報告の支援を行った県内の事業者は次のとおりです。

●中小企業等事業再構築促進補助金

公募回	市町村	事業者名	補助事業テーマ
第4回	東吉野村	観光旅館杉ヶ瀬	老舗旅館が挑む！地元食材を活かしたフレンチの新分野展開
第4回	奈良市	株式会社 春	春ブランドの知名度を活用したFC事業とEC販売への挑戦
第5回	奈良市	株式会社 リンコントロ	生産者とお客様を繋ぐファミリーレストラン事業への挑戦
第5回	奈良市	株式会社 ロワゾブリュ	経営資源を活用したベトナムスイーツのキッチンカー展開
第7回	奈良市	POOL	フランス仕込みのシェフによるフランスの本格焼き菓子店の開発
第8回	大和高田市	株式会社鈴木運輸	健康志向にシフトする社会へ運送会社が野菜加工事業で挑む！

●ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金

公募回	市町村	事業者名	補助事業テーマ
第11次	奈良市	天迦久珈琲	珈琲豆のオーダーマインドブレンドでネット通販事業へ挑戦

●小規模事業者持続化補助金

公募回	市町村	事業者名	補助事業テーマ
第10回	奈良市	OYATSUYA323	最高級ホテル出身のパティシエによるスイーツ販売への挑戦
第10回	奈良市	合同会社 工藝舎	ポストコロナに向けた自ギャラリーの無人セレクトショップへの変更
第10回	大和高田市	株式会社 鈴木運輸	青果運送の強みを活かした新鮮野菜の小売販売新規事業への挑戦

2023年2月、当公益社団法人は認定経営革新等支援機関となりました。認定経営革新等支援機関とは、中小企業や小規模事業者の経営課題の解決を支援する機関として国(中小企業庁)が認定した公的機関のことです。当公益社団法人は、中小企業診断士を有する認定経営革新等支援機関である強みを活かしながら、今後も中小事業者様の事業再構築や事業再生、創業支援等の支援活動を行っていきます。



Theme5

理事紹介



理事長
日置 弘一郎
ひおき こういちろう

＜経歴＞
京都大学名誉教授、鹿児島大学客員教授、広島大学客員教授。1972年京都大学経済学部卒、1977年大阪大学大学院経済学研究科後期課程中退。茨城大学社会科学部助手、京都学園大学(現京都先端科学大学)講師を経て、1983年九州大学助教授、1992年京都大学助教授、1999～2015年京都大学経済学研究科・経済学部教授。2015年鳥取環境大学経営学部教授、2018～2020年就実大学経営学部教授を経て、現在に至る。近著として、鹿児島大学稲盛アカデミー叢書第二巻「利他の構造」を奥野明子らと執筆しミネルヴァ書房から刊行、東洋経済新報社「人材育成事典」項目執筆。所属学会は、経営人類学会、しごと能力研究学会。

＜活動・研究内容＞
専門は、組織論、経営人類学。社会の中での企業の役割を考えることが研究テーマの中心としている。
ものづくりについてのビジネスモデルの多様性を分析する事業創成という学問を考えた。また、企業と他の社会的主体(家庭や地域社会、他の事業主体など)との共生を考える共生経営という領域を提唱している。さらに、国立民族学博物館の共同研究として経営人類学という理論領域を作り出し、20年以上継続して研究している。
一方、九州大学在籍時に福岡県の水産物付加価値向上委員会の委員長を務め、水産物への関心は高い。また、旅館の女将さんの研究にかかわるなど地域経済や地域経営といった領域でのテーマについて関心を持つ。さらに、最近は産業集積に関心を持ち、単一の企業を最適化するというこれまでの経営学ではなく複数企業の相互最適化という枠組みで経営学を再構成するというしごとを志している。



専務理事
川井 徳子
かわい のりこ

＜経歴＞
1981年立命館大学(文学部西洋史学専攻)卒業。国立博物館評議員。創業の地である奈良県を中心に、西日本でホテル経営などの観光・宿泊事業、物流事業、不動産事業を幅広く展開しているノブレスグループの代表。近代日本庭園「植治の庭」の再生に貢献。著書に『不動産は「物語力」で再生する』(東洋経済新報社)などがある。造園技術学会発行の学術誌に独自の分析を踏まえた「庭園・邸宅ビジネスの可能性」についての論文を寄稿。2020年11月観光庁の実証事業の採択を受け、奈良教育大学を中心に、県、市と協力し、奈良でSDGsを学ぶ「奈良新しい学び旅推進協議会」を立ち上げる。主な所属学会は、日本経済学会、日本造園学会、日本ESD学会、イベント学会。

＜活動・研究内容＞
昨年度は元日銀審議員・原田泰様のご協力を得て景気循環学会にて「高圧経済研究部会」を立ち上げました。前回のMMT Modern Monetary Theory は一時的な大ブームとなったものの、評価はすぐに立ち消えてしまいました。今回は地道な努力を積み重ねていく、長い道のりかなと考えております。日本経済の成長に資する活動につなげられたらと考えております。地域においては「奈良SDGs学びの旅」を推進しております。来年以降は社業からこのような地域活性化の活動に軸足を置いていきたいと考えております。皆様の暖かいご支援とご指導をお願い申し上げます。



理事
飯田 泰之
いいだ やすゆき

＜経歴＞
1975年7月 東京都生まれ 埼玉県日高市育ち
1998年3月 東京大学 経済学部 卒業
2000年3月 東京大学大学院 経済学研究科 修士課程 修了
2003年3月 東京大学大学院 経済学研究科 博士課程 単位取得退学
2003年4月 駒澤大学 経済学部 専任講師
2007年4月 駒澤大学 経済学部 准教授
2013年4月 明治大学 政治経済学部 准教授
2022年4月 現職

＜活動・研究内容＞
マクロ経済の理論について従来型のモデルから、需要要因の長期的な供給能力への影響に注目した高圧経済論の可能性について研究を進めている。そのなかで生産性や成長率の地域間不均衡に注目した理論・データによる研究を中心に著作・論文の執筆を進めている。これらの主要な専門分野についての研究活動と合わせて、地域、中心市街地の活性化に関するフィールドワークを進めることでマクロ・地域・ミクロの3つのレベルから日本経済の理解を進めたい。

Theme5

理事紹介



理事
馬場 正哲
ばば まさあき

<経歴>

株式会社地域計画建築研究所顧問兼主席研究監。1973年関西大学工学部建築学科卒業、同年株式会社地域計画建築研究所(アルバック)入社。取締役計画部長・総務部長・副社長を経て現職。地域計画とともにニュータウン計画、市街地再開発・都市開発プロジェクト、地域・産業・観光・文化振興計画、市街地・環境・景観整備計画、建築・ランドスケープ計画を担当。技術士、一級建築士、一級造園施工管理技士、再開発プランナー、元認定都市プランナー、マンション建替えアドバイザー。(一社)再開発コーディネーター協会、(公社)日本建築家協会、(一財)日本グラウンドワーク協会に所属。著書:都市再生・街づくり学~大阪発・民主導の実践~(創元社(大阪市街地再開発促進協議会編・共著)などがある。所属学会は、日本都市計画学会、日本建築学会、日本観光研究学会。

<活動・研究内容>

まちづくりの根本は、地域が健全に地域を統治(ガバナンス)する意識と仕組みができてることだと考えます。かつての日本には合議による地域運営が培われていたといわれます。しかし、明治維新の富国強兵の中央集権・国家高権、敗戦による復興・経済成長最優先や一極集中、グローバル化などの混乱を背景に、地域での主体性が曖昧模糊となり、健全な国家の土台が揺らいで久しい。今日漸く、官から民へ、市民が地域を担う時代が求められるようになり、このことも混乱の課程でもあります。大事なことは、ネットワーク型まちづくりの仕組みを息づかせることと考え、生命体のシステム(三つの系)をまちづくりに構築することを実践的に考えています。①神経系:地域自治の体制を構築/自治会等の再生/市民の自覚/行政の改革(アウトリーチ) ②免疫系:ネットワークの構築/多様な活動の連携・情報の共有・学習機会の共有 ③中枢系:地域理念の堅持/構想をもつ /「造化」の再生(万物生成、創造変化、自然、創造化する:列子「周穆王篇」)を目指しています。



理事
中澤 静男
なかざわ しずお

<経歴>

1982年立命館大学文学部史学科卒業。奈良県内の小学校に勤務するかたわら、社会科教育について研究し、2004年奈良教育大学大学院教育学研究科社会科教育専攻修士課程を修了。奈良市教育委員会指導主事を経て、2011年より現職(奈良教育大学教育連携講座教授、ESD・SDGsセンター長)。日本ユネスコ国内委員会国内委員。所属学会は、日本ESD学会、日本国際理解教育学会、日本環境教育学会、全国社会科教育学会、日本社会科教育学会、産学連携学会

<活動・研究内容>

奈良の文化遺産は1300年間受け継がれています。つまり1300年間現役です。これは当たり前前の出来事ではなく、偶然の賜物でもありません。この間に生きた多数の人たちの「受け継いでいこう」「残していこう」という思いと、それを可能にしたシステムがあったことが大きな要因です。私は歴史文化遺産が包含する持続可能な社会づくりの要因を解き明かすための研究を続けてきました。これらは大きくくくると、持続可能な社会づくりのシステムの側面の研究だと言えます。そして今は、現在社会を構成する人間の方に関心を移し、どのようにすれば人は価値観を変革するのかという問いを立て、人の脳の特徴を研究しています。まだまだ研究は緒に就いたばかりですが、ソマティック・マーカー仮説やソーシャルブレインズに着目し、生き残りの確立を高めるという、生物としての基本的な欲求が、様々な人のふるまいを理解するカギだと思い始めています。



理事
岩井 洋
いわい ひろし

<経歴>

帝塚山大学全学教育開発センター教授。1991年上智大学大学院博士後期課程単位取得退学。帝塚山大学経済学部教授、同副学長を経て、2012年より同学長、2017年から2021年まで文学部教授、2021年より現職。日本宗教学会理事、奈良シニア大学学長、NPO法人五新線再生推進会議理事長。専門は、宗教社会学、経営人類学。著書に『オルファイズム:岡田良男とオルファ株式会社の挑戦』(オルファ株式会社)、『大学論の誤解と幻想』(弘文堂)、『現代社会を宗教文化で読み解く』(共著、ミネルヴァ書房)、『キャリアデザイン』(共著、弘文堂)、『アジア企業の経営理念』(共著、文眞堂)などがある。所属学会は、日本宗教学会、韓国日本近代学会など。

<活動・研究内容>

地域社会への貢献活動として、「五條市地域・産業ブランド推進協議会」の座長をつとめ、同市における地域商社の運営を支援するとともに、NPO法人五新線再生推進会議の理事長をつとめ、幻の鉄道・五新線を観光資源として活用する活動をしている。また、奈良シニア大学で学長をつとめ、奈良校、橿原校、東京校とともに大阪校を開校し、シニア層に学びの機会を提供している。研究活動としては、宗教とビジネスあるいは経営との関係と分析する「宗教の経営学」と「経営の宗教学」を研究中である。また、産官学が連携する研究プラットフォームとして「経営人類学研究会」を主宰している。



理事
大江 忍
おおえ しんのぶ

<経歴>

1983年名城大学理工学部建築学科卒。一級建築士。2006年、設計事務所と木造専門工務店である有限会社ナチュラルパートナーズを設立、代表取締役として現在に至る。2013年より(一社)職人がつくる木の家ネット 代表。2018年より(一社)伝統を未来につなげる会 専務理事。2018年より愛知産業大学招聘教授。日本建築学会に所属。愛知建築士会会員。

<活動・研究内容>

(一社)伝統を未来につなげる会においては、「公共建築に匠の技を」というテーマで(公財)竹中工大工道具館にて、有識者4名による座談会形式の動画を5話と撮影し、「平城宮旧跡の復元を通して伝統技術を生かした公共建築のあるべき姿」をテーマに二話の動画をYouTubeにて配信いたしました。個人の事業といたしましては、掛川城天守閣の全面的な修理工事に木工事、左官工事などを施工し完成させました。また、国交省の「サステナブル建築物等先導事業(気候風土適応型)」の補助金を得て、モデルとなる石場建ての住宅を完成させました。所属する愛知建築士会において、特別部会を組織することを呼びかけ、伝統的構法住宅の普及促進および社会的認知、省エネ法に対する生き残りをかけて、「気候風土適応住宅」の愛知県における認定のガイドラインづくりを始め、県の条例策定にむけての提案をいたします。



理事
田中 俊行
たなか としゆき

<経歴>

2005年同志社大学文学部美学芸術学科卒業。大学在籍時には、華道史といけばなの定義についての研究を行う。大学卒業後は、野村證券株式会社にて8年間にわたり、地域優良法人やそのオーナーなどに対し、新規開拓営業を中心として金融商品や不動産、企業買収など幅広い資産管理の提案業務に従事。2013年に野村證券を退職後、2016年まで一般財団法人池坊華道会において池坊に所属する400支部14000名の先生方が個人で運営するいけばな教室への運営サポートを行う。2016年から自身の両親が運営するいけばな教室を引き継ぎ、流派内の同世代では最も多い100名弱の門弟を抱えて活動している。2021年より中小企業診断士として活動。コロナ禍で延べ100社以上の経営支援に携わる。

<活動・研究内容>

私は日本文化の将来にわたる持続維持を研究テーマとしています。例えば、私の本職であるいけばなは仏前供花より始まったとされバブル前に門弟数が最盛期を迎え、その後は減少の一途をたどっています。日本の伝統文化や芸技はいけばなと同じような状況であり、これらをどのようにして今後の社会の中で持続維持可能な存在にしていけるかを日々考えています。また、私は当公益社団法人内において、2020年度より県内の中小企業支援の担当理事として活動を行っています。ポストコロナといわれる中で、コロナ禍でうけた融資の元金返済に迫られ、それが重荷となり事業継続が困難になる事業者様が増加しています。1月に発表されました金融庁指針は融資現場の実情を十分に考えられたものではなく、今後さらに倒産・廃業に迫られる中小企業が増えることが明らかになっています。従来への支援に加え、中小企業診断士としての立場から金融機関と事業者様の間に立ち、円滑に資金が回っていくような支援をこのポストコロナにおいて行っていきたいと思います。